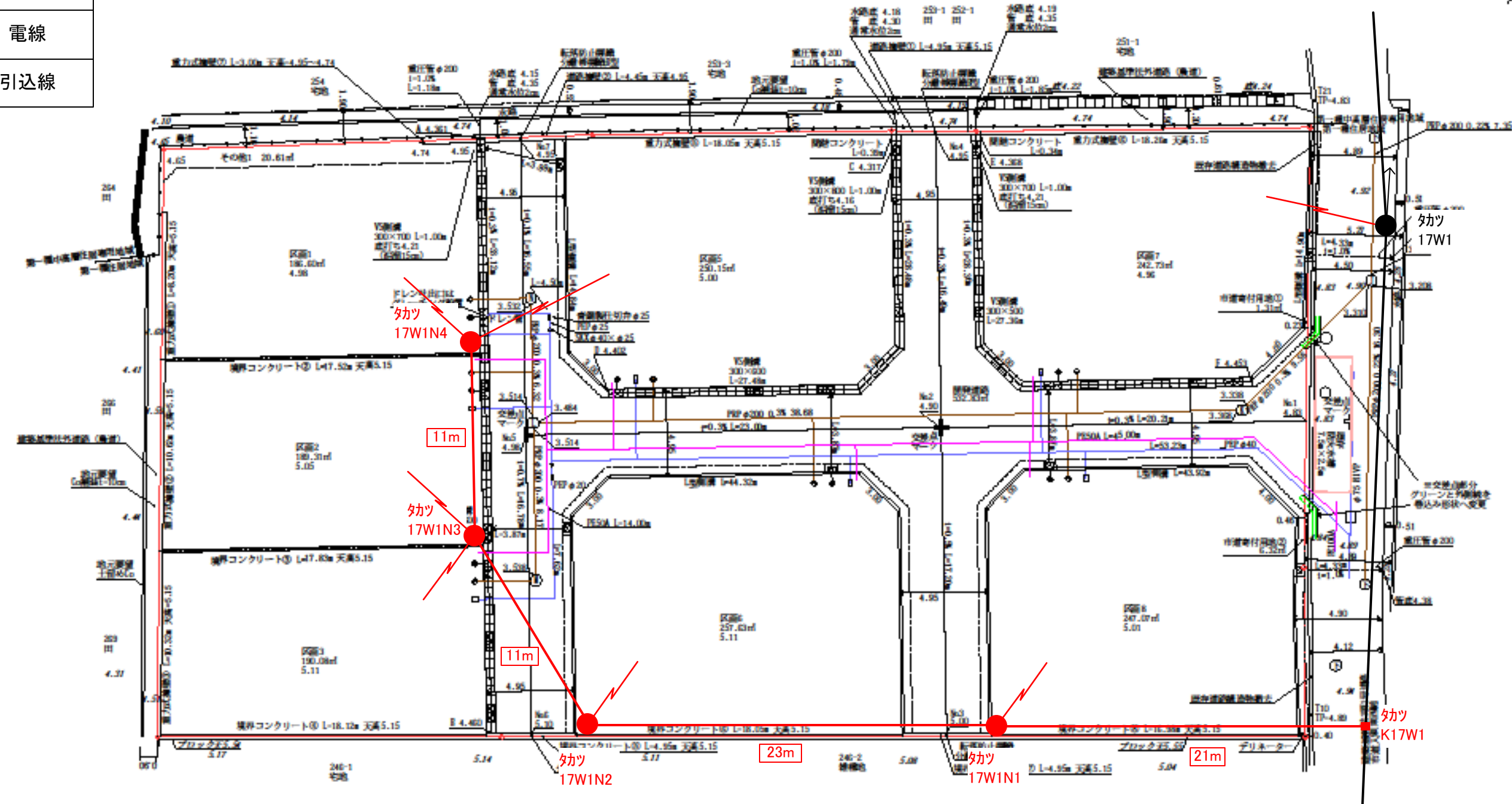


土地利用計画図

建柱位置案①

設備記号

●	電柱
—	電線
—	引込線



- 1号マンホール インポート施工
- 宅内下水道最終T-2 (PP350インポート) (取付管φ150NP 1%以上 合計延長17.94m) (側溝さしH=900以下)
- 宅内下水道最終T-2 (PP350絶だめ15cm以上確保) (取付管φ150NP 1%以上) (側溝さしH=900以下)
- ⊠ 量水器 (宅地引込給水管PEPφ20、量水器BOXサドル付分水栓 合計延長21.54m) 仕切弁 (φ40)

- ・掘削道路内で土被り60cm以下の箇所は管保護を行う。
- ・掘削道路の対向は最終側溝から後方先定とする。
- ・雨水を集水する例には穴あき管を使用する。
- ・雨水はインポート処理を行うこと。
- ・管交差部のクリアランスを10cm以上確保すること。
- ・管交差部のクリアランスを10cm以上確保すること。
- ・街渠側取付管径φ200、管種重圧管、勾配1%以上
- ・街渠側の取付管は、街渠側の角を過ぎないように施工すること。
- ・本管上での取付管は1m以上とする。
- ・電柱は掘削道路内に設置しない。
- ・マンホールでの側溝開口 (側溝代) を10cm以上確保すること。
- ・VS側溝とL型側溝の接合部は段差が無いように施工すること。
- ・宅内排水管の勾配は1%以上とする。
- ・雨水側は側溝を15cm以上確保すること。
- ・宅内排水管の土被りは20cm以上確保すること。
- ・予定建物の用途は一戸建ての住宅である。
- ・マンホール内はインポート処理を行うこと。
- ・街渠側グレーチング、マンホール蓋の耐荷重 T-14
- ・本管と取付管は支管接合とする。
- ・PEPを埋め戻す場合は砕石を使用すること。
- ・掘削区域境界折点

- 給水管について
- ・構造物、水路横断カ所は下越とし、距離を30cm以上確保する
- ・φ40以上の管にはローケーティングワイヤー及び破損防止テープ (埋設表示シート) を施工すること
- ・ただし、掘削埋設等はφ25以上の管 上水φ40未満の管には破損防止テープ (埋設表示シート) を施工すること (各戸給水管を含む)
- ・埋設深度は土被り0.8m以上とし、管の上下10cm砂寄せ、それ以上はクラッシャーランで埋め戻すこと
- ・埋設表示シートは土被り0.3mとすること

※水道、下水道、防火水槽の正確な位置は不明。工事前に調査を行い確認する。
下水本管敷設は、下水と側溝の合流点である。工事前に現況確認を行うこと。